



第 121号

令和3年 3月1日

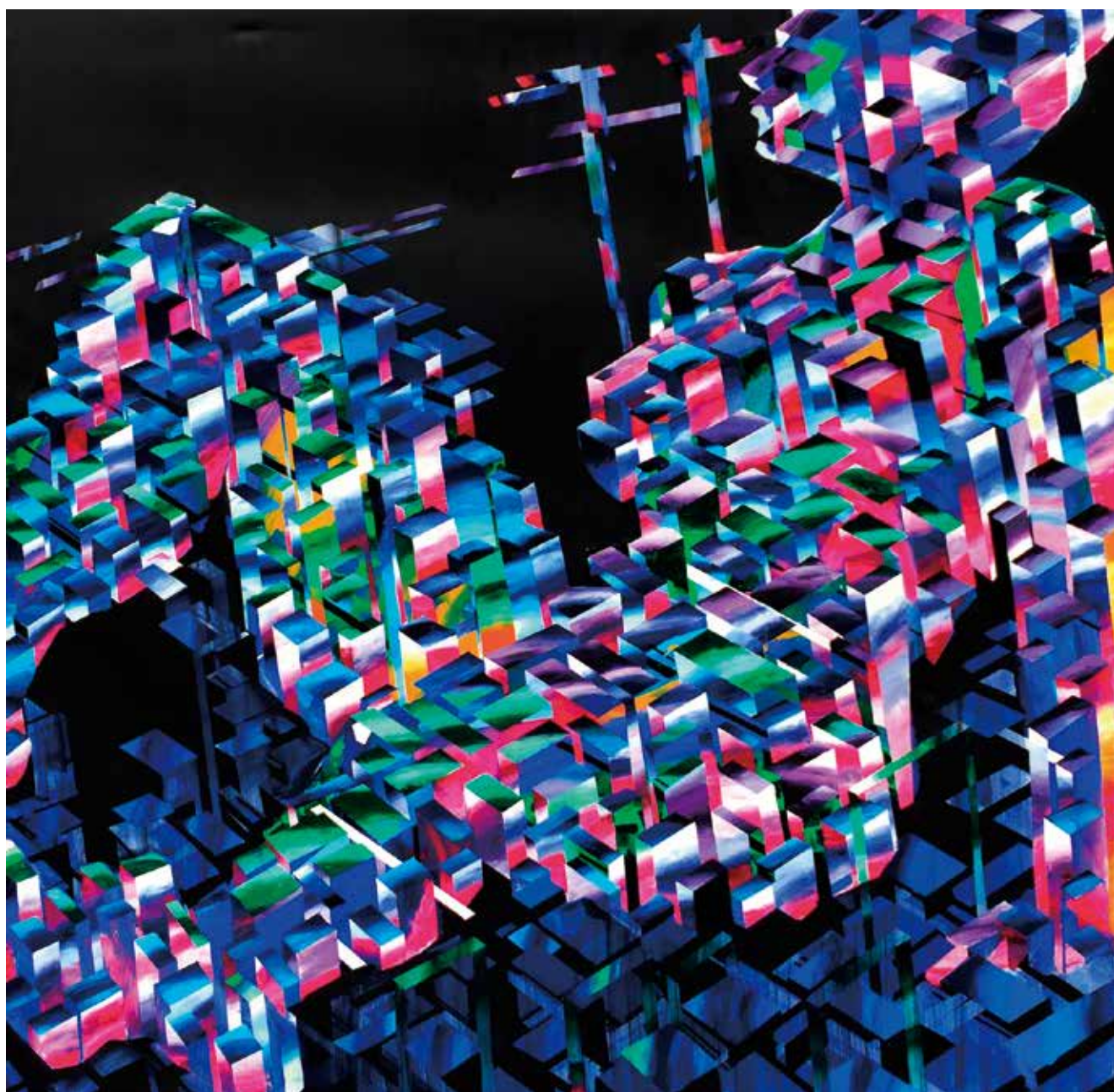
鹿児島県文化協会

発行人 原口 泉

鹿児島市山下町 5-3

宝山ホール(県文化センター)内

TEL 099-223-3123



第 75 回南日本美術展 秀作賞

「デジタルリアン2020-1」 岩田 壽秋 (油彩、120S 1940×1940)

# 二〇二一年お祭り元年

〜鹿児島ならではの文化の花を咲かせましょう〜

鹿児島県文化協会 会長 原口 泉



鹿児島の今年の秋は祭りで賑わいます。十月、日本の祭り全国大会in鹿児島市・霧島市、そして奄美で初の県民文化フェスタinあまみ。ともに実行委員会が立ち上がり準備を進めています。

朝の来ない夜が無いように、暗闇の先に文化の花が咲きます。アメノタヂカラオノミコト（天之手力男神）が岩戸隠れしたアマテラスノミコトをこの世に引き出してくれるはずです。

新型コロナ国内確認から一年余り、県内の文化活動、と

りわけライブは消えかかりましたが、嬉しい知らせがあります。文化協会のリーフレットに紹介した七夕踊り（国指定無形民俗文化財）がいちき串木野市のカレンダーになったことから、保存会では次回は開催したいとのこと。また昨年延期されていた第四十一回霧島国際音楽祭がはじめて冬に一週間、工夫して実施され、動画はのべ一万人視聴されたそうです。また会報前号につづき、今回も多くの寄稿があり、増頁となったのは嬉しい悲鳴です。

地域の伝統芸能が中止になったことを悲しむ南日本新聞ひろば欄（二月二十一日）の投稿（七十一歳男性）に共感しました。三百三十年以上の歴史がある鹿屋市上高隅町の中津神社の「かぎ引き祭り」中止を「無念」と叫んでいます。

県の文化財保護審議会では、現地調査して文化財登録を答申してきましたが、今年は調査ができず、無形・民俗文化財部門は答申できません。いっぽう県では令和二年度鹿児島県芸術文化奨励賞をさつま町の中津川民芸保存会に授与しました。同会は大石神社の金吾様踊りを奉納しています。県内の伝統行事はほとんど自前で、祭りの道具・衣

裳を修理して行事を継承しています。県文化協会でも毎年文化振興財団から受託して、資金助成を行っています。

昭和二十五年に文化財保護法が制定されてから、七十一年の現在、政府は改正案の国会提出を目指しています。

(一月三日産経新聞社説)現在、届出制を基本に緩やかな保護を講じる登録制度がありますが、コロナ禍で、無形の文化、とくに生活文化を未来につなぐことが危ぶまれています。食や農業文化から、茶道、華道、書道や現代アート、ファッションなど文化は多様です。しかし生活文化はいつのまにか消滅します。大工、左官技術などが世界遺産の対象とされるようになったのは新しい潮流です。優れた技術・文化を学び楽しむことが自己実現の楽しみです。もともと、産業革命の目的は余暇 (LEISURE) でした。レジャーとはギリシャ語源の学びです。たしかに労働 (LABOR) からは解放されましたが、現在の私たちはパソコンの前で、作業 (WORK) に追われていないでしょうか。今こそ、文化芸術の遊び (PLAY) を楽しみたいものです。さあ、鹿児島ならではの文化の花を咲かせましょう。

## 鹿児島県連合華道会



新春の寿き (池坊)

(令和2年12月4日～令和3年1月3日 山形屋玄関前)



秋の各流いけばな展

(令和2年10月30日～11月3日)

# 文化の薫り高いふるさと かごしまの形成に向けて

鹿児島県知事 塩田 康一



鹿児島県文化協会の皆様には、本県の文化行政の推進にあたり、日頃から御支援と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

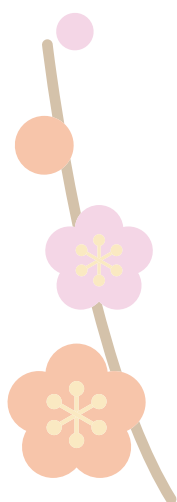
この度、県文化協会の名誉顧問就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

県文化協会におかれましては、県民の創造的な文化活動を支援し、また、県内各地域の文化協会や文化芸術団体との連携交流を図り、県民文化フェスタや伝統文化の保存・

継承事業の実施など、県民文化の振興に寄与することを目的に、本県の文化芸術振興の中心となり活動され、令和元年には創立50周年を迎えられました。これまでの活動に敬意を表するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動を自粛せざるを得ない厳しい状況の中においても、文化芸術の灯を絶やさぬよう御尽力いただいていることに深く感謝の意を表します。

鹿児島県といたしましては、令和三年十月に、本県で初めての開催となる「地域伝統芸能全国大会鹿児島大会」の開催などを通じて、鹿児島の伝統と文化が息づく街づくりを推進するとともに、引き続き、「文化の薫り高いふるさとかごしまの形成」に向けて、文化芸術の振興に取り組んでまいりますので、今後とも御支援・御協力をよろしくお願い申し上げます。

終わりに、鹿児島県文化協会のみましますの御発展並びに関係の皆様への御健勝・御活躍を祈念いたします。



目次

会長あいさつ(原口 泉)..... 1

顧問あいさつ(塩田 康一)..... 3

鹿児島県地図 & 目次..... 4

県庁表敬訪問(永山作二副会長)..... 5

希望ある文化協会へ向けて  
(川原純子副会長兼事務局長)..... 6

燃える地域文化

    NPO 法人薩摩川内市文化協会..... 7 ①

    南種子町文化協会「源三郎」..... 7 ②

    鹿屋市文化協会..... 8 ③

    霧島市文化協会..... 8 ④

    さつま町文化協会..... 9 ⑤

    湧水町文化協会..... 9 ⑥

    西之表市文化協会..... 10 ⑦

    南種子町文化協会..... 10 ②

    鹿児島市芸術文化協会..... 11 ⑧

    大崎町文化協会..... 11 ⑨

コロナ禍の文化活動

    鹿児島県美術協会..... 12

    鹿児島オペラ協会..... 13

    いちき串木野市文化協会(串木野支部)..... 13 ⑩

    鹿児島謡曲連合会..... 14

    はな野フラウエンコール..... 14

    鹿屋市文化協会..... 15 ③

    ブブ..... 16

    鹿児島県子ども劇場協議会..... 16

県民文化フェスタ in あまみ 2021..... 17 ~ 19 ★

「文化かごしま」アンケート結果..... 20

伝統文化の保存継承事業..... 21

文芸・作品コーナー

    鹿児島県俳句協会..... 22

    天秤宮(詩とエッセー)..... 22

    大隅やまなみ俳句会(鹿屋市文化協会)..... 23 ③

    あかおぎ(西之表市文化協会)..... 23 ⑦

    ひおき文芸賞(日置市文化協会)..... 24 ⑪

    大根占短歌クラブ(錦江町文化協会)..... 24 ⑫

    指宿川柳会(指宿市文化協会)..... 25 ⑬

    さつま町文化協会..... 25 ⑤

    同人会「源三郎」(南種子町文化協会)..... 26 ②

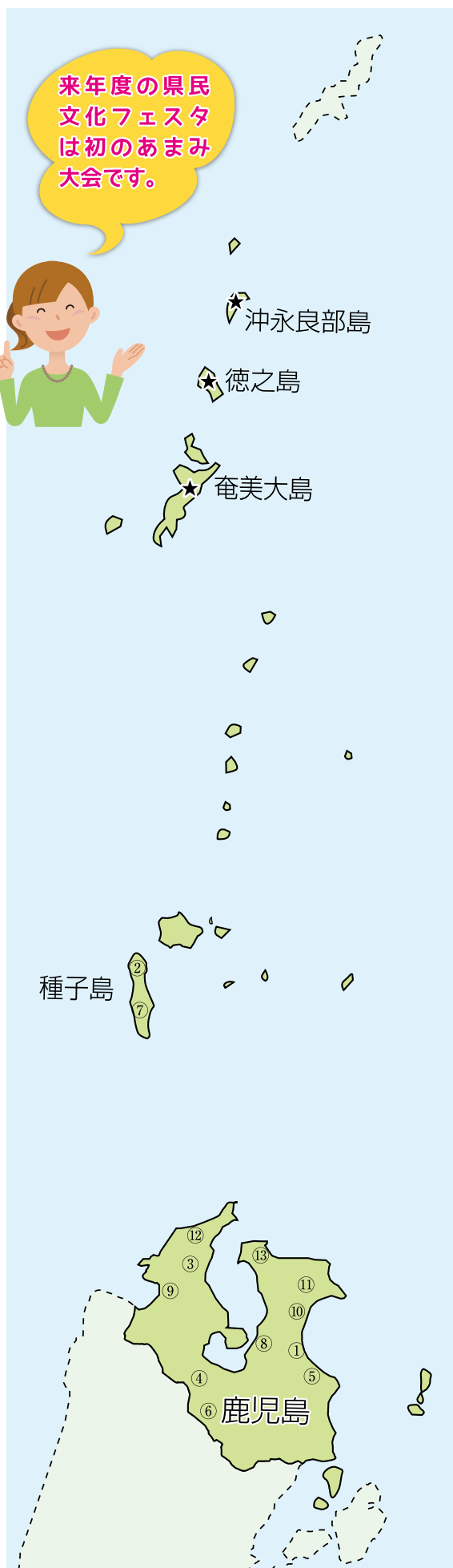
    大崎郷句同好会(大崎町文化協会)..... 26 ⑨

刊行物の紹介..... 27

賛助会員の紹介..... 28

事務局だより..... 29・30

広告・編集後記..... 31



※番号と★印は掲載された団体を表します。

# 県庁表敬訪問

## 知事訪問

右から  
 福園 力 (広報部長)  
 永山 作二 (副会長)  
 原口 泉 (会長)  
 塩田 康一 (県知事)  
 川原 純子 (副会長兼事務局局長)  
 宮原 俊郎 (総務部長)



副会長 永山 作二

会則に名誉顧問は、鹿児島県知事の職にある者をもって充てるという条文を、前知事にご承認いただいています。新たに塩田知事が誕生し、果たして認めていただくのか冷や汗をかく思いで待っていました。その心配をよそに、快くお引き受けいただき胸をなでおろしています。早めに表敬訪問しなければならぬと考えていましたが、コロナ禍の時期であり、じっくり時期を待ちました。漸く正月明けの十五日に実現しました。原口会長に三役役員四名が同行しました。原口会長より名誉顧問を引き受けていただいた事へのお礼と、鹿児島県文化協会へのご協力をお願いしました。原口会長は塩田知事といういろいろと親交があり、終始和やかな雰囲気でお話は進行してゆきました。新型コロナウイルス感染も予断を許さない状況でもあり、またさつま町での鳥インフルエンザが発生した時期でもありました。困難多忙な時期に私達との面会の時間を割いていただきました。文化はいつの時代でも、大切ですからとの、知事からの激励をいただき、感謝の気持ちで知事表敬訪問を終えることができました。



知事室にて歓談の様子

## 文化スポーツ局訪問

迫 貴美 (文化スポーツ局局長)  
 米盛 幸一 (文化スポーツ局次長)  
 柿内 一樹 (文化スポーツ局課長)  
 局長室にて



# 希望ある文化協会へ向けて

副会長 兼事務局長 川原 純子



新型コロナウイルスに翻弄され多くの行事が中止を余儀なくされた令和2年も終わり、収束が見えない中で新年を迎える事になりました。

私の副会長を兼ねた事務局長職もコロナ発生とともに始まり県文協の運営・事業推進・経理に関わる業務一つ一つを、事務業務職員や文化推進指導員と共に（折からのコロナ対応も加わり）忙しく過ごした一年となりました。

仕事を進めながら、これから進む少子高齢化・過疎化を伴う人口減の中で、県文化協会のこれからの行く末を思う時、確実に減ってゆく団体数や会員数の事を案じながら、早く手を打たなければと気が焦っているところです。

ここ五年間で県内人口は5.2%減に対し市町村文化協会の加盟団体数は28.4%減、文化団体の加

盟団体数は7.9%減との統計が出ており、先細りは目にみえています。県で唯一、多様なジャンル一〇〇余りの文化団体で構成されている貴重な県文化協会を、何としても維持発展させる為には、会全体の魅力づくりや人材の発掘、次世代への後継のあり方、財源確保のやり方、更には新しい時代にあった文化活動や発信の仕方等もどんどん進むと思われ、やらなければならない事が山積しています。

創立50周年が過ぎ、コロナ後を見据えた今こそ知恵を出し合い出来るところから手を打っていく必要があります。その為には、組織を活用し、内外で多くの皆様に建設的ご意見を出して頂きながら、次の一歩を踏み出して行く以外にないと思っています。

今年は夏に奄美沖繩の世界自然遺産登録が予定されています。その大島地区で、今回初めて「県民文化フェスタin奄美」が開催される事になっており今準備が進んでいます。黒潮でもたらされた奄美ならではの多様な文化が存分に発信され、フェスタを皆で盛り上げながら県文化協会の希望となる事を切に願っています。



総務部会の様子

NPO法人薩摩川内市文化協会

川内文化ホール閉館記念  
第15回薩摩川内市芸能祭



昭和41年に建設され多くの市民に親しまれてきた川内文化ホールが閉館することになり、それを記念した芸能祭が令和2年11月8日に開催されました。コロナ感染防止のために、無観客でライブ配信という初の試みではありましたが、2時間半余り、出演者は川内文化ホールへの想いを噛みしめるように熱演しました。最後の幕が降りると、出演者のほとんどが涙を流しながら、所作台の上を跳びはねて舞台の感触に浸っていました。

今後は、新しく建設されたコンベンション施設「SSプラザ せんだい」に活動の拠点は移ることになりますが、これからも文化を通じた市政への貢献を目指して頑張っていこう、と心を新たにしています。

なお、令和3年1月8日の「SSプラザせんだい」の開所式典のこけら落としで、清乃本勝穂さんが祝儀舞を披露し、観客の心を奪いました。

燃える地域文化

同人誌「源三郎」

「源三郎」は、令和二年に第六十三号を発行した。創刊は一九五九年（昭和三十四年）、南種子高校の文芸部の同級生三人が立ち上げた。当初は「文学みなみたね」の名前で始まり、第五号から「源三郎」に変更して現在に至っている。一寸風変わった南端門倉岬の沖にある暗礁の名前である。豊かな漁場で、干潮時にも姿を見せることはない。時には船が座礁して沈没している。「表には見えないが、根本は深く力はある」という思いを込めて命名した。

「源三郎」は、令和二年に第六十三号を発行した。創刊は一九五九年（昭和三十四年）、南種子高校の文芸部の同級生三人が立ち上げた。当初は「文学みなみたね」の名前で始まり、第五号から「源三郎」に変更して現在に至っている。一寸風変わった南端門倉岬の沖にある暗礁の名前である。豊かな漁場で、干潮時にも姿を見せることはない。時には船が座礁して沈没している。「表には見えないが、根本は深く力はある」という思いを込めて命名した。

発足当時は、四〇名以上の投稿があった。農家、商人、公務員、団体職員、教師、医師など多士済々であったが、多くの方が彼岸に旅立ち、現在の同人は十一名、発足当時から同人は四名である。平均年齢も高くなっていくが、若い書き手を発掘して、次世代に引き継ぎたいものである。

文芸一般、民族などすべての分野を発表できる町唯一の雑誌として、年一回の継続的な発行を目指している。





鹿屋市文化協会 劇団ニライスタジオ

次代につなぐふるさと文化事業

鹿屋市文化協会では11月15日に令和2年度の鹿屋市文化祭を開催しました。コロナ禍でイベントの開催が危ぶまれる中、暗く沈んだ世の中を少しでも文化の力で勇気づけたいと「心一つに」をテーマに、感染防止策を徹底し、また多くの方々の支えをいただき無事に終演しました。例年通り多くの文化団体が熱気溢れる演目や、素晴らしい展示を市民の方々に披露しました。また、鹿屋市では令和元年度から「次代につなぐふるさと文化事業」と題して、地域の郷土芸能の保存、伝承に力を入れています。今年も高須地区の伝統芸能である「刀舞」を見学、体験させていただき、その経験を活かした新たな創作舞踊を作り、今回の舞台で披露しました。過疎化が進む社会で、若者と地域をつなぐのが「祭り」であり「郷土芸能」だと改めて感じました。今後も鹿屋市文化協会では文化を活かした地域作りや青少年教育に力を入れていきます。



燃える地域文化

第十五回霧島市芸術祭

霧島市芸術祭「展示発表」は七支部が集結して秋の文化月間に開催しています。今年度は（10月25日～7日間）霧島市役所市ギャラリーは千二百名の市民の方にご来場いただき大いに楽しんでいただきました。コロナ禍の中で各団体は製作時間が取れなくて苦労が多く大変だった事と思います。作品数は、例年よりも三割強少なかったように感じられました。始良・伊佐地区生涯学習推進大会において、牧園支部「稲造踊り保存会」は郷土芸能部門の表彰を受賞されました。「稲造踊り」は、戦国時代に飯富神社に奉納する五穀豊穡の祈祭の事で地元では大変な賑わいがあったそうです。戦後途絶えていましたが平成11年地元有志の尽力により復活を果たして、地域子ども会と連携し地域文化の伝統継承と地域活性化、青少年の健全育成に努めています。保存会の永年の活動が認められてこの度の表彰の栄誉に輝いたものと感謝している次第です。

始良・伊佐地区生涯学習推進大会において、牧園支部「稲造踊り保存会」は郷土芸能部門の表彰を受賞されました。「稲造踊り」は、戦国時代に飯富神社に奉納する五穀豊穡の祈祭の事で地元では大変な賑わい



さつま町文化協会

みんなで待とう 一緒に笑おう 一緒に進もう  
 さつまの文化

令和二年度さつま町文化協会は今までの三支部（宮之城支部・鶴田支部・薩摩支部）から全てを統合、いわゆる一本化し活動することになり、新型コロナウイルスの中総会も出来ず、書面での承認を得て役員も二十五名から新役員体制十二名となり発進致しました。町の文化協会事業として四つの委員会（広報委員会・研修委員会・青少年文化活動委員会・北薩公園活用委員会）において文化活動を進めています。さつま町夏祭りや文化祭等殆どの事業が中止となり会員心を痛めている現状です。その中、文化協会の各団体間の活動報告会を開催しました。もちろん、消毒薬を設けマスク着用、ソーシャルディスタンスを十分に保ちました。それぞれの団体が活動の現状と今後の取り組みを発表し、交流を深めることが出来ました。殆どの団体が前向きで一日も早く必ずおとぎされるコロナ収束を願い、お互いに支えはげまし、みんなでつ



りあげて行くことを約束し、希望を持って会を終えました。令和三年度は青少年文化活動委員会の事業として「こども文化祭」を計画しております。開催に向けて準備を進め、今までの以上の内容を目指す予定です。新型コロナウイルスの中、大変な苦しい辛い体験をしてきました。それを乗り越える事で明るい日常が帰ってきた時、胸を張って立ち向かって行けると思っています。健康・元気でいてこそ未来があります。頑張りましょう。

燃える地域文化

「芸術文化作品展」開催

令和二年度は新型コロナウイルス感染症の拡大で世界中が危機的状况に陥っています。湧水町でも毎年開催されていた恒例の秋まつり町文化祭が中止となつたほか、本協会主催の舞台芸術祭も中止を余儀なくされ、寂しい一年となりました。しかし、「人と自然がおりなす芸術のまち」湧水町では、文化活動の継続を図るため、十一月十二日から一か月間、感染防止対策をとりながら「芸術文化作品展」が催されました。会場はいきいきセンターの郷町

民ホールには、園児・児童・生徒をはじめ文化団体の力のもつた数々の作品が飾られ、芸術性豊かな作品に多くの方が元気をもらいました。文化活動を楽しむ日常生活に早く戻るよう、一人ひとりが自分の行動に責任を持ち感染拡大防止に努めていきましよう。



湧水町文化協会

西之表市文化協会

守りゆく歌の文化

西之表市は現在二つの分野で文学活動がなされています。

「熊毛文学」(昭和二十五年創刊)年刊で令和二年十一月に一四九号発刊。内容は随筆、詩、俳句、小説など。文学「あかおぎ」(平成十三年創刊)短歌結社に所属し、歌会は毎月欠かさず令和三年一月で二二八回目。会員十五名、平成三十年に第三合同歌集「島風」を発刊。

種子島は平家一門の昔から和歌が詠まれ、室町、江戸時代には大衆化され明治に成り歌集が編集されている。熊毛集(明治十四年刊)西之表明治百一首(明治二十三年刊)大正昭和種子島百一首(昭和五十一年刊)私達の住む種子島は古くから「歌詠みの島」と言われてきました。冠婚葬祭には老若男女が歌をつくり、それを短冊に認めて朗詠する風習がありますが、現在もこの風習は継がれています。歌の巧拙より人々の真心を生活の中に浸透させ連綿と継承されてきた種子島の短歌、これは種子島特有の文化遺

産であり、これから守っていくべく伝統であります。



燃える地域文化

YouTube配信 鹿児島 自然がステーションになる日

種子島編

南種子町では例年通りふるさと祭りの中で文化祭を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けふるさと祭りが中止となりました。

そこで、鹿児島県の助成を受けて鹿児島島の自然が舞台、種子島編で南種子の観光地を舞台に見立てて、屋外で発表可能な、ダンス・音楽等を種子島宇宙センターを背景にしたり、又門倉岬神社、前之浜海岸等での成果発表を撮影、編集して、この映像を皆さんに見てもらって文化活動に親しみ理解してもらえたらと思っています。

又、映像の配信は南種子町のYouTubeで配信しています。是非ごらんください。



鹿児島市芸術文化協会

第46回鹿児島市春の新人賞 受賞者決定

本市を中心に優れた芸術活動を行う若手芸術家を顕彰し、今後の活躍を期待し贈られる鹿児島市春の新人賞。受賞者は今回で180名となった。

美術でも照明を巧みに取り込んだ空間構成は観る者を魅了。2019年、主宰劇団が第1回九州若手劇団アワードに輝くなど、その活動は鹿児島にとどまらず広く注目される。

川野貴之さん(声楽)

テノール歌手として、数少ないプロの声楽アンサンブルに5年間所属、国内各地で研鑽を重ねてきた。鹿児島でもソロリサیتالを定期的に開催。意欲的な企画と豊かな表現力が高い評価を受ける。



川野 貴之

繁昌絵美さん(絵画)

羊を自身に重ねた心象画は、確かなデッサン力と構成力に裏打ちされ独自の世界を創造。2018年南日本美術展吉井賞、2020年南日本女流美術展女流賞と大賞に輝き、充実した画力を示す。



繁昌 絵美

宮田晃志さん(演劇)

劇作・演出家として透明感あるファンタジー作品が若者を中心に大きな支持を得、また舞台



宮田 晃志

燃える地域文化

新春郷句詩始め

大崎町文化協会でも会員の高齢化で会員が減り、いくつかの同好会が廃会されているが、そんな中に十年以上も精力的に活動している薩摩郷句同好会の活動が広報誌「おおさき」で新年の特集として紹介された。

狂句は鹿児島弁を駆使し健全で明るい笑いやほのほとした人間味、さわやかな後味の良い風刺を持った品格ある庶民の詩という定義を打ち出し、ユニークな郷土文芸として発展し、多くの人々に親しまれ愛されてきた。そのようなことから「狂句」の名称を「郷句」に平成八年四月から変更された。



公民館講座の様子



大崎郷句同好会は、薩摩狂句の育てのおやでもある三條風雲児先生の意を継承し、会員は九名であるが、月一回の例会を開き郷土文系としての郷句の研鑽に励んでいる。今回は新年にちなんで「初」という兼題で句を詠んでもらった。(26ページ)



宝の辞典

大崎町文化協会 (大崎郷句同好会)

# コロナ禍の文化活動

## 文化・芸術の灯を守ろう！！

コロナ禍の逆境に負けず、前向きに活動している様子がたくさん寄せられました。

### 「ハートフルスケッチ会・御楼門を描こう」

鹿児島県美術協会

鹿児島県美術協会では、昨年十一月八日（日）に協会の自主事業として「ハートフルスケッチ会・御楼門を描こう」を開催しました。この催しは二〇二〇年度の「県美展」が新型コロナウイルスの影響で中止になったことから、昨年三月に復元完成した「御楼門」をテーマに、障がいのある方もない方もいっしょに表現を楽しむ時間を共有しようとして、どなたでも参加できるスケッチ会として企画したものです。

当日は老若男女、世代を越えて大勢の方々にご参加いただきました。画用紙や色紙、本格的にキャンバスを用意する人、また写真もスマホから一眼レフまで画材、機材もさまざま。それぞれに想いのこもった「御楼門」が仕上がりました。作品は一月十三日（水）から十七日（日）まで鹿児島市立美術館で展示。最終日はギャラリートークも行い、大変充実したひとときとなりました。



スケッチ会の様子



展示会最終日の記念に

# 文化活動

## 第四七回研究生公演を終えて

鹿児島オペラ協会 会長 高風 勝治

コロナ禍の中、第六八回 鹿児島市民文化祭参加の研究生演奏会を十一月八日に開催した。研究生が一人であったため多くの会員の協力をもらい演奏会を盛り上げることができた。

令和二年度は、鹿児島県主催の芸術鑑賞事業もコロナの為に全て中止になり、また例年八月に実施している名曲コンサートも本公演の「フィガロの結婚」が九月に再延期になったため実施することができなかった。そのため、十二名の会員と研究生が人前で演奏することは、久しぶりのことで少し緊張感の漂うコンサートになった。当日は、コロナ対策として検温・手指消毒・観客のマスク着用で実施した。座席の方もソーシャルディスタンスをとり、隣の席は空けての公演であった。休憩時

もより長めの休憩時間をとり、換気を十分に行いながらであった。演奏の方は、会員一人一人が思いの歌曲やオペリア・重唱を歌い上げた。演奏する方も、観客の方も久しぶりの声楽のコンサートで満足した様子で帰路につかれた。今、コロナ感染が大幅に増えている。コロナの一日も早い終息と三月四日に公演予定のオペラ「フィガロの結婚」が無事に幕を開くことができるように願うばかりである。



## まちなか文化祭

いちき串木野市文化協会串木野支部 支部長 川原 純子

いちき串木野市文化協会串木野支部では、コロナ禍で開催できなかった市文化祭にかわり、鹿児島銀行などの協力も頂き十一月二日から十一月三十日までまちなか文化祭を開催しました。

習字、写真、短歌、華道などのほか、バレエ、コーラス、詩吟、ピアノ、ハワイアンなどたくさんの方々に参加してもらいました。最終日には琴の演奏もあり、コロナ禍の中でも、何とか文化の活動の発信をすることができ、喜んでいただきました。



街なかに響くお琴の演奏



舞台発表に代わって衣装や写真の展示



書道と華道のコラボレーション



文化の未来を担う子どもたち

# コロナ禍の

## 「宝生流鹿児島こども能教室」に係わって

鹿児島謡曲連合会 会長 中西 喜彦

昨年十月三十一日（土）、「かごしま能」が主催・宝生流皓月会、共催・鹿児島謡曲連合会で、県民交流センター能舞台において公演されました。前座に、こども仕舞

親、知人がチケットを買ってくれました。また、新聞やテレビが子供仕舞を取り挙げて衆知してくれました。

「猩々」(文化庁伝統文化親子教室事業)が表記の成果発表として披露され好評でした。参加した生徒は十六名(中一・三名、小六・五・五名、小四・六名、小一・年長組各一名)でした。七月から十月まで九回に亘ってサンエールかごしま、ハートピアかごしま、県民交流センター、甲南福祉館などで三密注意のもと行われました。

一方、子供達は部活動、塾通いと多忙な中、興味を持って良く習っていました。これは主宰者の石黒実都師の優れた指導力と保護者達の連携と協力の賜物です。

今になって考えると、こども仕舞は催し物全体の「時の氏神」的存在になりました。まずその集客力です。祖父母、両

「やれば出来るのだ」と改めて生徒達の学習能力と市内の充実した諸研修施設の存在を感じた行事でした。

今になって考えると、こども仕舞は催し物全体の「時の氏神」的存在になりました。まずその集客力です。祖父母、両



能舞台(県民交流センター)のこども達



練習の様子(ハートピアかごしま)

## コロナ禍の合唱活動

県おかあさんコーラス連盟「はな野フラウエンコール」

私も「はな野フラウエンコール」は、四十歳代から七十歳代のメンバーで構成されたおかあさんコーラスです。昨年三月練習会場の自粛要請があり練習は休みになりました。緊急事態解除後に会場は使えるようになりましたが、合唱活動は慎重にならざるを得ず、練習再開は九月になりました。再開にあたり、全日本合唱連盟が策定した「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」を参考にし、リスクを減らすために以前は週

二回行っていた練習を一回にしました。練習会場は前後左右の間隔を十分に取ることができ換気もできます。団員手作りの歌いやすいマスク、インナーマスク、フェイスマスク、インナーマスク、フェイスマスクに不織布をつけたもの等、それぞれに使いやすい物を使って練習しています。

まだまだ先の見えない状況ですが、昨年開催できなかった演奏会がいつかできることを願い、一歩前進して行こうと思っ

ています。



広い窓のある練習会場



間隔を取っての練習



マスクいろいろ

# 文化活動

## 第五十一回鹿屋市文化祭 「幸せな未来へ心をひとつに」

鹿屋市文化協会 会長 上熊須 晃

一 昨年末始まったコロナウィルスは、依然衰えを見せず年度末を迎えようとしています。

鹿屋市でも、様々な事業が中止

や延期となりました。文化協会でも事態の深刻化に伴い、事業の見直しを迫られました。役員会、理事会を重ねる中で「こう言う時だからこそ」コロナ禍で消えかかっている大隅、鹿屋地域の芸術文化を再燃させる先駆けとなつて文化祭開催の気運が盛り上がって来ました。

話し合いをする中で、今年度限り、展示部門は例年どおり二日間、舞台部門は、一日の文化祭を、開催する事を決めました。

一、参加は各団体に委ねる。

二、参加できる団体も参加しない団体も文化祭当日のスタ

ツフとして協力して頂く。

三、文化祭のスローガンを「幸せな未来へ 心ひとつに」

コロナ対策としては、令和二年九月十四日発、文化庁政策課長事務連絡「十一月末までの催物の開催制限等について」に基づき、入場時の検温、カードへの連絡先の記入、手の消毒、マスク着用、三密防止対策等徹底する事としました。

十月十四日、展示部門が開幕し、華道、書道、絵画、俳句、薩摩郷句、手工芸の展示、また小中学生より募集した書道、絵画、作文、短歌、俳句の入選作品も展示されました。

十五日舞台部門も開幕し、入場口では、文化会館に備えて貰った一度に二、三十人の検温ができるサーモ

グラフィード式の検温機でスムーズな入場が出来ました。連絡先の記入も長机四台で密を避けられました。場内の椅子は一脚おきに着座禁止札を貼りました。

オープニングの少年少女合唱団に始まり、新加入団体の女性コーラス、ヒップホップ、ハンドベル、ベリダダンスに従来の日本舞踊、大正琴、詩吟、創作郷土芸能、高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」の若い力など、全員の協力で多種多様の発表が行われ、お客様に感動して頂けたと思います。

出来ないとはいえなく、どうしたら出

来るか、すべて前向き姿勢で取り組み、新たな可能性の文化祭でもありました。

「為せば成る為さねば成らぬ何事も」の先人の言葉を実感しながら鹿屋市文化協会、創意工夫を凝らしながら、滞る事なく出来ることを地道に進めていきたいと思っています。





# コロナ禍の

## 鹿児島国体とブブ

芸能舞踊スタジオ  
ブブ

初音家 はつねや  
政鵬翔 せいほうしょう

二〇二〇年は、三八年振りの鹿児島国体が実施されるはずでした。NPO法人らんらんらんで、郷土芸能舞踊「竹はんや」を開会式のオープニングで披露する予定でした。鹿児島市立荒田小学校三、四年生、鴨池小第二児童クラブ、ジュニアリーダーズクラブのトマト及びゴアラ、老人クラブ有志、演奏協力のごったん倶楽部成音会、韻天流天吹塾、ブブの複合団体総勢約二五〇名の出場者でした。ブブでは、国体出場が決まっただけの一年間、伝承活動の集大成として、勇ましく楽しい民謡で、乾いた素朴な竹の音をグラウンドに響かせて出場選手や観衆の前で披露できることを念願していましたが延期となり、残念でなりませんでした。

仲間との絆の強さと別れる悲しさなど多くの貴重な経験が出来ました。また、衣裳・小道具・交通費等寄付を募る中、企業や施設の半被貸出協力や、県文化協会川原事務局長様の呼び掛け協力下さったおかげもあり衣裳・小道具に関しては安堵することも出来ました。国体準備委員会から出場の証として「二〇二〇KAGOSHIMA」記名タオルの配布があり、皆様へ手渡しさせて頂く際、改めて感慨深く心が温かくなります。終りに、三年後に開催予定の鹿児島国体の大成功をお祈りしつつ、頂いたご縁を大切に、今後も精進して参ります。ご支援ご協力いただいた皆様方に心から感謝申し上げます。



## 子どものための 文化芸術の灯を消さないために

鹿児島県子ども劇場協議会

「鹿児島県内のすべての子ども達に生のお芝居を届けたい」とはじまった鹿児島県子ども芸術祭典は、二〇二一年で三三回目を迎えます。昨年の祭典では、コロナの禍中でも、特に子ども達には、命を守るのと同じように心を守ることも大切にされるべきではないかという思いから、中止せずになんとか開催できる方法を考えようと、延期に延期を重ね九六ステージ

計画したうちの六一ステージ開催することができました。開催してみても、文化芸術がこんなにも人々の気持ちを柔らかく温かくするということが、そして、こんな状況下だからこそ求めている子ども達がいるという事を再確認することができました。三三回祭典は、二月から六月まで八一ステージ計画しています。ぜひ、お近くの会場にお越しください。



# 「県民文化フェスタinあまみ2021」 開催へ向けて

## 出演団体

	演 目	出演団体	市 町 村
1	奄美六調太鼓	奄美六調太鼓	奄美市名瀬
2	島唄	大笠利わらぶえ 島唄クラブ	奄美市笠利
3	諸鈍シバヤ	諸鈍シバヤ保存会	瀬戸内町
4	稲すり踊り	芦検民謡保存会	宇検村
5	西仲間竿踊り	西仲間八月踊り 伝承会	奄美市住用
6	秋名平瀬マンカイ	秋名平瀬 マンカイ保存会	龍郷町
7	棒踊り	西伊仙東棒踊り 保存会	伊仙町
8	浜踊り	亀津浜踊り保存会	徳之島町
9	正名ヤッコ踊り	正名ヤッコ踊り 保存会	知名町
10	組踊「高平良(万才)」	畦布伝承舞踊 保存会	和泊町
11	小宿相撲甚句	小宿「相撲甚句」 保存会	奄美市名瀬

令和3年10月30日(土)午後5時開演  
奄美文化センター 大ホール

本年は東京オリンピック開催。奄美・徳之島が世界自然遺産登録になる年であります。

この記念すべき年に奄美大島で「県民文化フェスタinあまみ2021」が初開催されますことを嬉しく思います。

私たちは成功へ向けて着々と準備を進めております。

今回の県民文化フェスタでは各市町村の国県市町村指定重要民族無形文化財である代表的な郷土芸能を披露いたします。

奄美大島の歴史文化に触れる絶好の機会ですので、成功いたしますことを皆さまと共々楽しみに期待いたしております。

奄美市文化協会長 境 賢 勇

### 「奄美六調太鼓」 奄美市名瀬

奄美大島の郷土伝統芸能として、地域のイベントそしてお祝いの事には必ず六調太鼓教室は平成18年の公民館講座が始まります。後に自主講座として「ほ～らしゃ」「花もも」「ルリカケス」の3団体を結成し今年で16年目になります。会員は50余名で、六調太鼓の後継者育成と普及、奄美芸能のすばらしさを全国へ発信したいと月6回の練習に励んでいます。

各種イベントへの出演は数え切れず、特に東京渋谷公会堂での「奄美日本復帰60周年記念」式典出演、また市民文化祭では100人太鼓を実現いたしました。

六調とは「三線」「島太鼓」「唄」「囃子」「ハト(指笛)」「踊り」で成り立ちます。

普通は1人で叩いて場を盛り上げますが、後継者育成と普及を目的に大勢で叩き、見せる太鼓へと発展しています。当日は50余名で叩きます。

奄美六調太鼓師範 橋口 ルリ子



### 「正名ヤッコ踊り」(県指定無形民俗文化財) 知名町

沖永良部島において、ヤッコ踊りは、昭和初期の頃までサイサイ節踊りのように、各集落で唄い踊られていた一般的な踊りでしたが、現在では正名集落の他に数集落に伝承されているだけになっています。

正名集落のヤッコ踊りは、畦し越い(あぶしぐい)・天ぬ群星(ていぬぬぶりぶし)・久高マンジュウ主の三曲構成になっています。踊り手の数に定数は無く、舞台の広さやその場の状態によって踊り手の数が変わります。現在、集落や町などの公的行事や各家庭の祝いの座などで、老若男子の集団舞踊として勇ましく軽快に踊られています。

現在、国頭・西原・出花・畦布・玉城・根折・田皆・正名・瀬利党の島内9地区が合同で「沖永良部島ヤッコ踊り保存会」を結成し、鹿児島県無形民俗文化財に指定され、伝承活動を行っています。



「諸鈍シバヤ」(国指定重要無形民俗文化財) 瀬戸内町

諸鈍シバヤの舞台となる「大屯神社」はフェリーかけろまの発着地である生間から峠を越えた諸鈍集落の入口にある。

口承によると、源平の戦いに敗れた平資盛は追討から逃れるため奄美大島に渡ってきたという。資盛は加計呂麻島の諸鈍に居城を築き、薄幸な一生を送った。彼が島民と交流を深めるために教えたのが諸鈍シバヤの始まりと言われている。かつては20種余りあったという演目も、現在は11演目が諸鈍シバヤ保存会により伝承され、主に旧暦9月9日に同神社の境内で踊られている。

民俗芸能である諸鈍シバヤの特徴は、出演者がすべて男性であり、手製の「紙面(カビディラ)」をかぶっていることである。



「稲すり踊り」(村指定無形民俗文化財) 宇検村

芦検集落の稲すり踊りは、昭和13年に田植えの祭りへ奉納する踊りとして始まり、現在も集落の豊年祭では毎年踊り継がれています。また、宇検村を代表する伝統芸能の一つとして様々な大会でも披露されています。

ウスヤツチ、サンバラなどの古い生活用具を使い農作業の様子を軽快なリズムの踊りで表現します。

芦検民謡保存会



「西仲間竿踊り」(市無形民俗文化財) 奄美市住用町

200年程前から西仲間集落に伝わる伝統芸能である。1年間の五穀豊穡、無病息災を祈願する踊りである。旧暦8月15日の十五夜行事として年に1回だけ踊り奉納する。「竿踊り」の前には、まず同じく200年前から伝わる「悪綱引き」を行い、次に「八月踊り」、そして最後にこの「竿踊り」でクライマックスを迎える。

昭和54年「県民俗文化祭」出演をきっかけに「西仲間竿踊り保存会」が結成され、平成4年「奄美市無形民俗文化財」となった。

「竿踊り」の構成は、稲作作業の田植えから収穫、脱穀作業までを表現している。2本の竿を持つ人を中心に男女で円を成し、周回しながら唄に合わせて踊る。「ヒョヤーレンコー」の掛声に合わせて男女が竿を持ち、大きく回しながら近づいていくところがクライマックスである。唄は6番まであり、その中に「ヒョヤーレンコー」の掛声が必ず入っている。



「秋名平瀬マンカイ」(国指定重要無形文化財) 龍郷町

龍郷町秋名・幾里集落では、旧暦八月の初丙の日(アラセツ)に国指定重要無形民俗文化財の「ショチガマ」と「平瀬マンカイ」が行われます。

「平瀬マンカイ」はアラセツの日の夕方に秋名湾の西海岸の2つの岩礁、神平瀬と女童平瀬を舞台として行われ、白装束のノロ役5名が神平瀬、男女7名の宮司などが女童平瀬に登ってお互いに向き合って行事が始まります。神平瀬の女性達が歌い始めると、女童平瀬で宮司などが手を大きく左右に振り、ネリヤカナヤから稲魂を招いて豊作を願う祭事です。

秋名平瀬マンカイ保存会



「亀津浜踊り」(徳之島町指定無形民俗文化財) 徳之島町

亀津浜踊りとは、男と女の円陣による掛け合い唄をうたいながら踊り、最初はゆっくりと元歌(打ち出し唄)を唄い、24番まである歌詞を奇数は男が、偶数を女が唄い踊る。そしてテンポが速くなっていき、踊りの速さがクライマックスに達した時に終了する踊りです。



亀津浜踊り保存会

「棒踊り」 伊仙町

地域の大先輩、吉見福静氏により、陸軍歩兵第45連隊で習得されたのち、地域に広められ約90年になる。

紅白のタスキ・ハチマキと袴姿。2列縦隊で6尺の青竹を打ち合い、紅白の紙テープが舞い、竹は割れ、勇壮・躍動感ある棒踊りです。

地域住民、子どもから高齢者まで約100名で継承活動を担っている。町民文化祭や体育祭で披露するほか、入学祝・成人祝い・棟上げなど、集落の祝い行事で披露するなど、地域に密着した活動を展開している。

西伊仙棒踊り保存会



小宿相撲甚句 奄美市 名瀬

小宿相撲甚句は、小宿集落で毎年9月に行われる豊年相撲祭の土俵で披露されます。

始まりは大正5年で、恵源治さんという人が海軍で覚えた相撲甚句を、兵役を終えて帰ってきた小宿の土俵で歌ったのが始まりです。

その後現在まで百年余の間、形を変えずに小宿の土俵で引き継がれてきました。甚句に合わせて12人の力士が輪になって踊るのも大きな特徴の一つです。



「島唄」 奄美市笠利

私たち大笠利わらぶえ島唄クラブは、郷土の伝統文化である島唄を継承するため、昭和58年から地元の小・中学生を対象に地元の指導者達を中心となって週1回、放課後の時間帯に地元公民館へと集合して島唄練習を行ったことが始まりになります。

その後、三味線や太鼓・八月踊り・小正月遊びなどの古くから伝わる郷土文化の伝承を自主的に始め、現在では郷土芸能伝承活動だけでなく、地元の史跡巡りや稲刈りなどの体験学習、社会人や高校生となった元メンバーも時に参加しつつ、異年齢活動としても新しい体験にチャレンジしながら幅広い活動を続け、今日で38年間続いているクラブです。

当日は児童・生徒40名前後で出演を予定しております。

大笠利わらぶえ島唄クラブ



あぜふあざ 「畦布字の組踊「高平良(万才)」」 和泊町

父親を高平良御鎖に闇打ちされた兄弟が仇討ちを果たす沖縄県の組踊「万歳敵討」は、琉球王国の芸能に日本の能・狂言等を取り入れて創作された歌舞劇で、2010年にユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録されている。

畦布字の組踊「高平良(万才)」は沖縄の組踊をアレンジしたものであり、演出が微妙に異なるが、セリフは首里の古い言葉が使われている。2019年に畦布字の中村スエ氏の記憶を基に沖縄県立芸術大学の講師等の協力により、60年ぶりに復活上演した。

鹿児島県内では畦布字のみが唯一伝承してきた伝統芸能であり、万才口説に載せて踊る字の伝統芸能「棒万才」や兄弟のお供をする京太郎が登場するなどの特色が見られる。

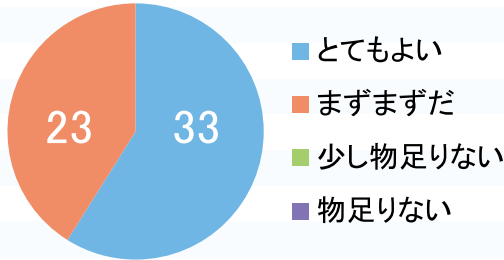


# 機関誌「文化かごしま」アンケート 集計結果

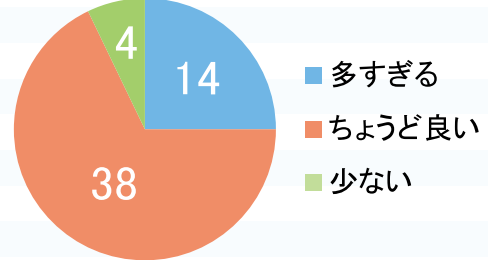
[ 回答期間：R2.10.9～R2.11.10    回答方法：メール、FAX、郵送 ]  
 [ 回答数：56/98                      回答率：57.1% ]

10月に、機関誌「文化かごしま」の内容充実などを目的に実施しましたアンケートの結果です。各[問]の記述欄には、いろいろなアイデアやご意見をお寄せいただきました。今後の編集の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

**問1 「文化かごしま」の現在の内容はいかがですか。**



**問2 配付部数でお尋ねします。**



**問3 「文化かごしま」で、どんな情報を知りたいですか。 <複数回答可>**

項目	※ 多い順に掲載 どんな情報を知りたいか?
地域や文化団体などで取り組んでいる新しい試み	34
文化芸術の振興などに関する情報	32
県内の特色ある文化的な事業の紹介	32
青少年や若い世代の方々の活動	32
県文化協会がめざしていること	27
伝統文化の保存・継承の取り組み	27
「燃える地域文化」にあるような加盟団体の活動の紹介	23
文化施設の紹介	20
いろいろな分野の作品の紹介	20
いろいろな分野の人材の活動	19
一般県民の方々の声	16
文化芸術に関する提言	12
県文化協会の運営の状況(予算・決算 など)	11
3つの専門部の活動状況	11
賛助会員の方々の声	8

**問4 より良い「文化かごしま」にするためのアイデアやご意見等がありましたら、お書きください。(自由記述)**

※ 20数件の中から抜粋で、要旨を掲載

- かがしまならではのものをシリーズ化して発信し続けるページが欲しい。例えば、かがしま弁と島口の違いなど。
- 目次ページに地図を掲載し、各団体の位置を表示すると分かりやすく、会員入会のきっかけにもなるのでは。
- 各地区の若者への継承の情報に興味がある。
- 読みやすく、レイアウトや誌面も美しい。文化とはいえ、興味関心はいろいろなので焦点化が難しいのでは。
- これからも、新しい情報の掲載をお願いします。
- 鹿児島県の文化などのエッセーが多くあるといい。
- これからを担う若い人達とが文化交流を盛んにし、既存の踏襲ではない仕掛けができれば。
- 内容の取扱に強弱が少なく印象が薄い。見出しを大きくしたり活字をひっつけたりと、アクセントがほしい。
- 充実した内容なのに身近になっていない。県文化協会と私たちの活動がどんな位置づけにあるか、よく分からない。
- 座談会などを開き、子ども達の伝統行事や伝統文化への率直な思いを知りたい。
- 市の文化協会の広報誌紹介があり、興味を持った。広報誌紹介コーナーがあったら、内容を拝見したい。
- 会員の紙上作品展(文芸・美術など)は如何か。
- 各団体が情報を共有し、よりよい鹿児島県の文化活動を推進していきたい。

# 郷土の伝統行事や伝統文化の保存継承を



霧島市

## 霧島俵踊り

霧島神宮での奉納は中止になるも、10月11日の天孫降臨霧島祭(霧島市民会館)に出演し、ライブ配信を行った。



指宿市

## 開聞龍宮太鼓

開聞郷土芸能祭と開聞地域文化祭は中止になるも、練習は継続し、1月7日枚間神社にて奉納。



薩摩川内市

## 大馬越太鼓踊り

7月26日、鷹ノ子神社で奉納後、地区コミュニティセンターで発表



始良市

## 米丸太鼓踊り

施設訪問と敬老会での発表は中止になるも、保存・継承のための練習は継続(地区いきいき交流センター)。

## 伝統文化の保存・継承に係る助成事業

### 1 目的

県内の郷土芸能や伝統行事など伝統文化の担い手の育成・確保に取り組む活動に、助成を行うことで、貴重な文化遺産を保存・継承し、地域の文化振興に資することを目的としています。

### 2 業務の委託

公益財団法人鹿児島県文化振興財団の委託で鹿児島県文化協会が実施しています。

### 3 助成対象団体(次に掲げる全てに適合する団体が対象です。)

- ・県内に住所または活動の拠点を有する団体
- ・郷土芸能や伝統行事など伝統文化のうち消滅のおそれのある団体
- ・郷土芸能や伝統行事など伝統文化の担い手の育成・確保に取り組む団体
- ・国及び地方公共団体やこれに準ずる団体、営利団体、政治団体、宗教団体、並びに国及び県指定文化財は対象外です。

### 4 助成対象経費

- ・講習会・成果発表に係る経費
- ・衣装・道具の購入及び修理に係る経費
- ・その他担い手の育成・確保のための活動に要する経費

### 5 助成金の額

1団体当たり10万円が上限で、助成総額は予算の範囲内です。

### 6 助成金交付申請書提出先、問合せ

提出先: 各市町村を経由し県文化協会へ      問合せ: 各市町村文化行政担当課、県文化協会

文芸・作品コーナー

鹿児島県俳句協会

第一一六回南日本俳句大会入賞作品

鹿児島県知事賞（大会賞）

秋天へ一声あげて受賞牛

鹿児島県俳句協会賞

秋寒やしづかにはづす喪の真珠

南日本新聞社賞

いま少し生きるつもり梅を干す

鹿児島県教育委員会賞

曼珠沙華本家分家は哇伝ひ

鹿児島市長賞

島巡る船に先づ積む今年米

鹿児島市教育委員会賞

梵鐘の余韻も包み芙蓉閉づ

優秀賞（二位～三位）

数式に解かるる宇宙虫の闇

秋晴や牛吊りあげて船に積む

故郷へ帰れぬ子等の布団干す

第五一回南日本女流俳句大会受賞作品

大会賞

折鶴に八月の息満たしけり

南日本新聞社賞

余白なき軍事郵便蟬しぐれ

優秀賞（二位～三位）

父の字で送られてくる今年米

聞くだけの励ましもあり鯛雲

括られて萩に新たな揺れ生るる

寶來喜代子

永井紀子

永田昌子

永井紀子

前田浩海

坂口美代子

松園耕造

平石勝嗣

上 レイ子

藤元睦子（鹿児島市）

山内幸子（霧島市）

坂口美恵子

安楽与喜子

西村セツ

天秤宮（詩とエッセー）

デルタ

前田 勉

彼岸に打ち上げられし残骸

哀しみの雨が浸み込む度

覆い隠した深い愛が精錬される

波浪あり、風力あり、蒼いベエルの岸

諦念のイオンが香る

浮遊したる微細粒子の聲

削り取られて乾いた骨音

うごめく全てが受け入れられ

遠く銅色の道標を差す

胎動が始まった希薄な気団に向かう

七階のレストラン

中村 保子

不要不急の外出は控えてと

テレビもラジオも一日中呼びかける日が

幾日か続いた日

それを振り切るようにバスに乗った

マスクをして窓を少し開けて

大声で叫びだしそうになる家から

逃げ出した

心を解き放ちたくて

ひとり

一人は慣れているはずなのに

来る日もくる日も

ひとりを強いられると

ぎしぎしと体中が軋み

ヒトに会いたくなつた

天気予報が外れて

雨は

ガーデンのテーブルにも椅子にも

容赦なく降り続けている

デパートの七階のレストラン

窓際の席に案内された

左手の奥に初老の男

手にはコーヒークップ  
レストラン一押しランチが  
テーブルに並んだ  
窓の外に視線を向けながら  
ゆっくりとステッキを口に運ぶ  
雨はまだまだ止まない  
四階の傘売り場で  
おもいつきり明るい色の傘を買って帰ろう



### 大隅やまなみ俳句会 (鹿屋市文化協会)

※湾の和田洋文主宰に指導いただき、月一回第四日曜日に吟行し、吟行後に西原学習センターで句会をしています。

紅茶より珈琲欲しと秋の雨

和田洋文

冬の陽にゆつくりゆつくり舞ふ水車

中原律子

草紅葉日向親しくなりにけり

有蘭すみえ

蓮罇種失ひし穴の闇

池江 和

生かされて今ある我や桔梗咲く

岩元 楊子

秋の蝶草の高さを舞ひにけり

安庭 幸

友よりの果汁たばしる林檎かな

安藤瑞子

動くもの見えて春待つ池ほとり

加藤 エミ子

花野歩す孕みし牛の眼の優し

中園美智代

蜘蛛の囿や殊更解けぬ謎に似て

垣内 静香

エプロンは竿に吊るして小正月

川崎 健一

高千穂の風を楽しむ花芒

福沢 霧子

世の無情洗ひ流して滝落つる

永吉 朝子

網戸ごし秋風やさし昼餉どき

徳永 なり子

久に観る星の煌めきちちろ鳴く

永吉 一步

(令和二年度鹿屋市文化祭出品作品より)

### 「あかおぎ」 (西之表市文化協会)

#### 短歌

庭にとぶ蝶のたはむれ眺めをり平和はいいな命はいいな

下村 タミ子

豊作を祈る心が結ばれる苗買う人に渡す瞬間

川崎 正子

緊急な地球の課題と対峙せよコロナは我らに警鐘鳴らす

栗崎 和子

月見れば過ぎにし事の思わゆるる台風避難、友との別れ

桑原 房子

ウイルスで友との集いままならぬ不気味なコロナに人間くたくた

福元 秀義

地平線に沈みゆく陽を見とどけて今日も一日畑仕事終ゆ

榎本 澄江

わが家にも市からのマスク配布ありコロナ対策気を引き締めん

大山 貴美子

へゴ林道歩けばぬっと恐竜に会えそな冷気に包まれており

岩坪 純子

わが街も保護活動家が動き出し猫のしあわせ人のしあわせ

濱田 千代

揺れ動く馬毛島いわんや琉球弧日本の舵とる首相を危ぶむ

吉原 三保子

道々を行けばつわぶき黄の灯りこの平穏を永遠にと願う

吉原 三保子



ひおき文芸賞 (日置市文化協会)

俳句

〔最優秀賞〕

灯の如く凌霄雨に揺れ

中島 優子

〔優秀賞〕

新道へ迷へり園の竹の春

小濱 十四子

小さき手の花束持ち来敬老日

福元 さゆり

短歌

〔最優秀賞〕

北京の石蹴って走った小学生過去の私を黄砂つれくる

町田 和子

干涸らびし様に見えるかドクターは「水分とれ」と我に幾度も

中島 優子

箱根路の旅の記念に手ざはりよき寄せ木細工の椀二つ買ふ

坂口 勝美

川柳

〔最優秀賞〕

ヒーローだコロナでみなをすくういしゃ

馬場口 琉生  
(小一)

さつま狂句

〔最優秀賞〕

郷里で帰つ元氣くば貰ろたせつべとべ

中園 照志

〔優秀賞〕

内心し新た響つ戒めいろは歌

池上 良子

旅支度朝昼晩の薬ゆ出つ

入来院 元彦

大根占短歌クラブ (錦江町文化協会)

ふる里の清々しさを道野辺の露を跳ねたる白まんじゅしゃげ

池田 行徳

我が背丈ほど伸びたる杉見ると手入れ育てし父母の労思ふ

加治木 優

只今と帰れば自然に抱き合いし晴菜とのハグ今はお預け

徳留 民子

収穫のまじかとなりて田の畔に燃えるがに咲く赤のひとむれ

山本 アツ子

茜空開聞岳と桜島足止め見入り時は過ぎたり

内村 末子

目が合えば背中丸めて身構えるワツと脅して猫にグツバイ

川越 裕子

秋深む空に真白き羽根ひろげ巨大風車は天を突き入る

小牧 直子

のたうって台風に抗いいし木々の朝の雨に素直に打たる

平石 克子

木犀は金の花びら秋最中マスクはずして匂いを探る

平石 恵子

遠き日に出雲の神に願かけし幼き恋よ今は夫といる

馬込 由美子

中秋の風に吹かるるすすきの穂陽のしみとおる夕暮の路

宮園 美千代

指宿川柳会 (指宿市文化協会)

お先にどうぞほんとに先に逝っちゃった

大竹 剛文

我が夢をワイングラスに傾ける

桜井 茂範

そうだねのひと言で座があたたかい

馬場 ナオミ

免許更新認知テストが通せんぼ

上村 久榮

耳元でこっそり告げる出来たのよ

篠原 郁代

ババサンタ大化けしたが声でばれ

小田 隆司

人生は喜怒哀楽の長い旅

下山 索陽

置き土産ウイルスまでも置いていく

小牟禮 昌代

無観客行司の声がよく響く

永吉 勉

難儀して送った学費酒に化け

稲田 茂

さつま町文化協会

にしき江短歌会宮之城支部

床に就く母の姿を見届けて介護は終る 今日も花まる

是枝 ゆみ子

新米はひかり艶やか旨味増し今朝の初膳仏前に供ふ

内田 三郎

十九歳 召集されて二等兵高粱飯にいつも餓鬼餓飢

松下 正人

さつま俳句会

火碎流積もる年輪島大根

高嶺 虎男

夏の蝶ワルツの後はサンバ舞ふ

池田 みずえ

あくまきや釘字で届く母の文

下土橋 渡

渋柿会宮之城支部

敏腕家じゃろ貫ろた焼酎どが棚ねずらつ

桑元行水(行弘)

敏腕女将大酔漢ん管巻を手玉め取つ

山下千舟(千正)

敏腕妻け背負に抱っこ俺が所帯

楠八重溪流(英雄)

敏腕婆金利三割吹っ掛けつ

上西昇い子(敏郎)

文芸誌「源三郎」 (南種子町文化協会)

葉の萌ゆる青柳髪にさす乙女華やぎを増す庭園入口

島田 絃一

開拓の仕上げと開きし田も今はニガ竹生ひて老人を拒む

都 貴美生

亡き父のなせりし仕草を我もする稲穂を手に受け籾数ふるも

岩屋 秀男

春三月園庭飾れり桜花去りゆく児童を追いつ散りゆく

古市 安子

コロナ禍の地球よさらばここのとりにわが身を託し旅支度せん

松下 正樹

年寄りの着物を着せて妻つくる案山子は孫待つ西瓜見守る

長田 孜

大崎郷句同好会 (大崎町文化協会)

【初】

神棚ん 爺さんに供げた 初月給

(唱) 爺様ん遺影が にこつち笑るつ

諸木 小春

初デート 終め際うえやつと 手を握つ

(唱) 待つちよつた態で そつち手を出つ

上村 牛歩

初孫が 天国の父親へ 可愛じ手紙

(唱) お利巧さんち 喜くじよい亡父

藤本 鬼瓦

やったどち 花園が沸た 初トライ

(唱) ラグビを知たん 女房迄や大騒動

西ノ園ひらり

箱一杯 野菜を初荷で 子い送つ

(唱) お年玉迄い 序い入れつ

遠矢 耐多

初夢ん 鐘ん三つい 目が覚めつ

(唱) 今年しゃ良か年し なるそな按配

満石 うらら

初孫ん 可愛か手の平れ 大か夢

(唱) 将来く楽しんに 家族中が期待

上窪 小絵

初出社 金髪ちネール 真赤け紅

(唱) どした事かよ 社内やざわめつ

二見 寓楽満

球打つの ワンぬば願ごた 初詣

(唱) よつしゃ頑張れち ワンの神様

北村 虎王

事務局に届きました

## 発刊物の紹介

### 鹿児島偉人カルタ55

日曜日に九州管内で活躍している人を紹介するテレビ番組があります。最初はかごしまオゴジョが誰なのか気づかなかったのですが、そのうちに原口会長の秘書であった下豊留さんである事が分かりました。鹿児島偉人カルタ55を創作された、という事で紹介されていました。先日表敬訪問した塩田知事は西郷隆盛の再来ではないかと言われていました。そのセゴドンをカルタの中では明治維新、薩摩のリーダーうどめさぁーと表現してあります。偉人カルタ55は評判が良く、書店に買いに行ったのですが、すでに売り切れでした。(永山 作二 記)



監修 原口 泉  
作 下豊留 佳奈  
絵 さめしま ことえ  
発行者 鮫島 亮二  
発行所 燦燦舎  
定価 (本体1600円+税)



### 「おてっちき鹿児島おはら節」 林竜一郎 著 国分進行堂刊

#### おはら節に歴史民俗を読み解く本



ISBN 978-4-9910875-6-1C-0039  
(全国書店扱い)

鹿児島を代表する民謡「おはら節」。その歌詞は百を超えると言われます。笑いがあり、哀しみがあり、艶っぽくもあり…。民衆の歌であるからこそ、しなやかにたくましく生きる、人々のありのままの姿が息づいています。

「おはら節」の歌詞を窓にして、当時の人々が眺めた風景や込められた思いを感じて欲しいと、七年の歳月をかけました。民衆の歴史、民衆の底力に拍手を！表紙には県民のソウルフード「地鶏の刺身」を採用。おてっちき飲んみゃんせ！

離れて暮らす家族・友人・親戚に「故郷の風味」として贈るのも一案かと……。

【A5版フルカラー 274頁 ￥2200(税込)  
県内各書店で取扱い】

### 刊行物の紹介

事務室に届きました刊行物です(県内分)。お越しの際はぜひ手にとってご覧ください。

- 天秤宮(詩・エッセー)第50号
- 日本伝統俳句協会鹿児島県部会誌「のぼり」第23号
- 文芸同人誌「あかね」(秋号)第117号
- 俳句雑誌「湾」
- 正・政・清・聖・性・醒「炉ばたセイ談」第16号
- 鹿児島市芸術文化協会「かごしま芸術文化」第135号
- 南種子町源三郎文学同人会「源三郎」第63号
- いちき串木野市文化協会市来支部「文化いちき」第28号
- 鹿屋市文化協会「鹿屋文化」第42号
- 黎明の地 ふるさと短歌大会集
- 指宿市文化協会「文化いぶすき」第28号
- 鹿児島謡曲連合会「風姿」第16号

# 賛助会員

(令和3年2月20日現在)

ご支援ありがとうございます。

岩根 康子

島本 保子

平島 義仁

本村 錦香

川原 健司

山元 黎子

上山 貞茂

下鶴 隆央

成尾 信春

松里 保廣

池畑 憲一

堀之内 芳平

塩田 深雪

最勝寺 良寛

辻 三男

前田 久恵

森山 陽子

古市 裕美

岩重 仁子

酒匂 卓郎

田畑 浩一郎

西村 協

向井 俊夫

大久保 博文

中村 耕治

迫口 幹子

野元 誠二

松清 秀一

吉井 浩一

本村 ヒロ子

宮之原 加代子

吉留 厚宏

鶴丸 明人

前原 尉

柳 誠子

田中 良二

堀之内 道子

鹿児島筑紫会

日高千代子バレエスタジオ

女声合唱団コールあじさい

野辺ひふ科クリニック

詩吟朗詠錦城会鹿児島県本部

いちき串木野夢サロン

かごしまたのしい唱歌教室

引坂ピアノ教室

※ 順不同、敬称略

## 賛助会員の募集

当協会では、鹿児島県の文化振興並びに文化活動を支援していただく団体や個人の賛助会員を募集しています。

県の文化活動の発展のため、継続的なご支援をよろしくお願いいたします。

団体 1口 5000円~/年

個人 1口 3000円~/年

### 賛助会員の特典

- 1 機関誌「文化かごしま」の謹呈(年2回発行)
- 2 機関誌「文化かごしま」及び県民文化フェスタのパンフレット等へのご氏名の掲載
- 3 県文化協会主催行事へのご招待

事務局までお気軽にお問合せください。

事務局だより

## つ・な・ぐ

公演、講座、ワークショップなどの講師(団体・個人)を紹介いたします。  
お気軽に事務局までお問合せください。

県文化協会には各市町村の文化協会の他に、33の各種文化団体(左ページ参照)が加盟しています。  
それぞれの部門で県内外で活動し高く評価されています。

各種文化団体の活動に興味や関心をもったり、芸術性や専門性に触れたりしてほしいと思います。市町村文化協会と各種文化団体の交流の一助になればと願っています。

## 最近のお問合せより・・・

夏休みに小学生向けの俳句教室を開催したいです。  
講師の紹介をお願いします。

鹿屋市社会福祉協議会輝北支部



加盟団体の「鹿児島県俳人協会」から  
当協会の理事である山之内赫子氏をご紹介します。

鹿文協事務局



## 講師の山之内 赫子 氏(県俳人協会 評議員)

米谷静二氏、水原秋桜子氏、堀口星眠氏に師事  
俳誌「ざぼん」主宰  
川辺青の俳句大会審査委員  
県内各地の市民大学、公民館講座等で俳句教室講師

鹿屋市社会福祉協議会 輝北支部

## やすらぎの里支援事業「夏休み学習支援 俳句教室」

鹿屋市輝北町 ふれあいセンターにて 令和2年8月4日



小学生11人が参加し、俳句の基礎知識、詠み方を学習しました。

講座の終わりには、それぞれ5句程度詠み上げ、講師の先生に称賛されたそうです。参加した子どもたちは、喜びもひとしおだったことでしょう。



## 加盟団体(文化団体)

加盟団体、  
随時募集中

- 公益社団法人 鹿児島交響楽団
- 鹿児島オペラ協会
- 鹿児島県吹奏楽連盟
- 鹿児島県合唱連盟
- 鹿児島県おかあさんコーラス連盟
- 鹿児島県箏曲会
- 生田流箏曲綵音乃会
- 鹿児島県尺八連盟
- 錦翔流大正琴
- 音楽館ギャバン
- ゴッタン成音会
- 鹿児島県書道会
- 鹿児島県美術協会
- 日韓交流美術展実行委員会
- 岡田茂吉美術文化財団鹿児島支部
- 鹿児島県詩人協会
- 鹿児島県歌人協会
- 鹿児島県俳人協会
- 天秤宮社(詩とエッセー)
- かごしま文芸研
- 鹿児島市民劇場
- 鹿児島県子ども劇場協議会
- 日本舞踊綾木流本部
- ブブ
- 鹿児島謡曲連合会
- 劇団「夢飛行プロジェクト」
- 鹿児島県連合華道会
- 表千家同門会鹿児島県支部
- 茶道裏千家淡交会鹿児島支部
- 前結び宗家きの和装学苑
- 詩吟朗詠錦城会鹿児島県本部
- 鹿児島県詩吟剣武道連合会
- 田の神を守る会

上記に加えて各市町村文化協会(55団体)が加盟しています。(加盟団体についてはホームページで紹介しています。)

### 「鹿児島県芸術文化奨励賞」について

本県では、昭和52年から、芸術文化の各分野で優れた業績をあげ、その向上発展に貢献し今後一層の発展が望まれる個人・団体に「鹿児島県芸術文化奨励賞」が贈られています。

本年度は、個人の部で美術部門の石原琢二郎氏(洋画)と井上周一郎氏(彫刻)、団体の部で中津川民芸保存会(薩摩郡さつま町)が受賞されました。おめでとうございます。

県文化協会でも加盟団体や所属している個人を推薦しています。自薦、他薦を問いません。お気軽に事務局までお問い合わせください。



### 県文化協会ホームページ

当協会ホームページの「加盟団体」ページからそれぞれのホームページやフェイスブックにリンクする作業を行っています。ご希望の団体は連絡をください。

また、後援している団体のイベント紹介もしています。加盟団体のイベント等も紹介しますので遠慮なくお問い合わせください。



### 絵画寄贈

当協会理事の松山豊氏(鹿児島市芸術文化協会)から絵画「早春の桜島一甲突川」を寄贈していただきました。この絵は昨年6月に作成した当協会パンフレットの表紙絵として松山氏に依頼し描いていただいたものです。

この度、当協会理事の中西喜彦氏(鹿児島謡曲連合会)のご厚意により、額縁とイーゼルを提供していただき、殺風景だった事務室が文化協会らしい雰囲気になりました。素敵な絵に心が和んでいます。ありがとうございました。



### お詫びと訂正

117号

- 16ページ下段
- (誤) 渋柿会 (正)にしき江宮之城短歌会
- 中村 操 氏の短歌
- (誤)手に受けし車運転卒業書安全一つ証となさむあかし
- (正)手に受けし車運転卒業書安全一つ証となさむ

120号

- 18ページ 賛助会員
- (誤)前原 慰 (正)前原 尉

お詫びして訂正いたします。今後、確認を徹底して参ります。

# 太平次顕彰ヤマキの会

浜崎太平次像除幕（一九九七年指宿太平次公園）

太平次は十四才で「琉球へ渡り海の男になろう!」と立志しました。琉球が育てた幕末薩摩藩最大の豪商です。

**来年は沖縄で国民文化祭が開催されます  
（沖縄本土復帰五十周年記念）**

※後列中央は島津斉彬公に扮装の原口泉先生



## 編集後記

広報部 林 三十四

前号に続き、未だ新型コロナウイルスの影響が衰えない状況下での「文化かごしま」一一一号発行となりました。さまざまな行事や活動が中止や延期を余儀なくされて、「仕方ないよねえ」という諦めの言葉がつつい出てしまおう今です。

けれど、今回寄せられた多くの原稿に目を通すうちにどんどん勇気がわいてきました。

市民の思いを繋ごうと工夫を凝らして芸術芸能の祭典を実施された薩摩川内市や鹿屋市の取り組みや、秋の県民文化フェスタに向けて着々と準備を進めていらっしゃる奄美の皆さんの歩みなど、さまざまな地域・部門で文化の灯を点し続ける多くの方々の熱意に出会えたからだと思います。

「文化の力は未来を照らす」と言います。逆境を越えて、よりしなやかにより強く生きる道を示してくれることでしょう。

## 広報部



- 福園 力（鹿屋市文化協会）
- 河野 洋子（錦江町文化協会）
- 西野 実（指宿市文化協会）
- 有留 常夫（南種子町文化協会）
- 境 賢勇（奄美市文化協会）
- 山之内赫子（鹿児島県俳人協会）
- 林 三十四（かごしま文芸研）

## 鹿児島県文化協会

〒892-0816 鹿児島市山下町5-3 宝山ホール2F  
 電話&FAX 099-223-3123  
 Email kabunkyou@yahoo.co.jp  
 ka-bunkyou@po.minc.ne.jp

HP

